

I 学校の概要

学習意欲向上モデル校事業

宇多津町立宇多津中学校

◆生徒数及び教員数

○生徒数

第1学年	第2学年	第3学年	特別支援	全校
5学級 165名	5学級 172名	6学級 189名	3学級 7名	19学級 533名

○教員数 39名

◆学校の特色

本校は、校区内に宇多津小学校と宇多津北小学校の二つの小学校をもつ宇多津町唯一の中学校である。そのため、地域の人々の本校への期待は非常に大きい。PTA役員をはじめ保護者には、学校教育に対して大変協力的な方が多く、毎朝、本校の正門で複数の保護者の方があいさつ運動を行い、地域と中学校が一体となって教育活動が行えている。行政からのサポートも非常に手厚く、町の教育委員会だけでなく、町の保健福祉課や民生委員など、外部関係機関とも密接につながり、生徒個々への支援が充実している。

本年度のスローガンは『当たり前のことを当たり前にするー凡事徹底ー「進化」と「深化」で「真価』』である。このスローガンは、自分を高めていくことで、深い学びにつながり、それが本当の自分の価値を高めることを表している。このスローガンを合い言葉に、全教職員が一致団結して教育活動に取り組んでいる。

II 研究主題等

研究主題

生徒の主体的な学び（学習意欲）を育むための宇中型協同学習の実践（4年次）
～どの子も一人にしない、どの子も夢中に学ぶ授業をめざして～

◆研究主題設定の理由

本校では、一方的に学習内容を伝えることができる教師主導の授業が主流になっていた。このような授業は、一時的な点数の上昇や理解、習得の改善がある一方で、現代的な学力の課題である思考力や判断力の向上にはつながりにくいと考えた。平成25年度から、すべての生徒に自信を持たせ、よりよい集団づくりのために誰とでも関わり、学び続ける力を育むことを通して、学習意欲をどう高めるかという議論をし、この解決には、どの子も一人にしない、どの子も夢中に学ぶ授業（以降 宇中型協同学習）の実現が不可欠であり、教職員の協働意識の高揚が最重要課題であるとの結論に達し、本研究主題を設定した。

◆研究内容及び方法

宇中型協同学習の実践に向けて、どの子も一人にしない、どの子も夢中に学ぶ授業をめざす。そのために、校内の現職教育の組織として、安心・安全・なかまづくり部会、承認・内面化部会、宇中型協同学習部会の3つの部会を設けている。安心・安全・なかまづくり部会では、よりよい集団づくりのことを、承認・内面化部会では、自尊心を高めることを、宇中型協同学習部会では、学習内容の振り返りから学習課題の設定、学び合い学習という学習サイクルの構築を研究する。

生徒主体の協同学習をすべての授業で行い、全教職員で研究を推進する。特に、以下の5点の内容について重点的に取り組む。

- ① どの子も一人にしない全学級の「学び合い学習」の環境作りの研究と実践
- ② 授業の振り返り（自己評価）を活用した2段階（共有とジャンプ）の学習課題の研究と実践
- ③ 授業の振り返り（自己評価）と生活の記録（連絡帳）の学習計画を活用した自主学習の研究と実践
- ④ 宇中型協同学習の実現をめざした教員相互に参観する全学級の公開授業の実施
- ⑤ すべての生徒の学びを見取る代表授業研究の実施

Ⅲ 成果の評価計画（検証方法）

「主体性（学習意欲）育成モデル」に沿った、年間2回の学校評価アンケートと国や県の学習状況調査質問紙調査から抽出した設問等のデータをもとに、全教職員で生徒の居場所の安定を基盤として、段階的に生徒が夢中になって学べる授業をめざしていく。そのために、次の10の指標を設定する。

- ①（生徒対象）授業の内容がどの程度分かりますか。
- ②（生徒対象）友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。
- ③（生徒対象）授業は楽しいと思いますか。
- ④（生徒対象）分からないところは先生や友だちに質問して解決していますか。
- ⑤（生徒対象）授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていると思いますか。
- ⑥（教員対象）普段の授業で、生徒が安心して発言できる雰囲気づくりに取り組んでいますか。
- ⑦（生徒対象）学習課題に対して意欲的に取り組んでいると思いますか。
- ⑧（生徒対象）授業の振り返りでは、分かったことを書くことができますか。
- ⑨（生徒対象）授業の振り返りでは、誰から学んだかを書くことができますか。
- ⑩（生徒対象）学級には、声をかけてくれたり、気にかけてくれたりする仲間がいますか。

これらの項目について、5月下旬にアンケートをとり、実態を把握する。そして、11月の県の学習状況調査の質問紙調査や学校独自のアンケートと比較し、検証したい。

さらに、年間7回の授業研究日を公開し、香川県教育委員会、香川県教育センター、並びに「学びの共同体」の研究者等の外部指導者からの指導助言等の評価をもとに、本校の成果と課題を整理し、本研究の方向性を点検する。

Ⅳ 研究成果の普及方法

授業研究における指導助言や生徒の意識の変容から、本校の成果と課題を整理し、公開授業や坂出・綾歌支部の研究会、「香川の教育づくり発表会」などで発信したい。

本年度の研究発表会の予定は、以下の通りである。

- ① 「学びの共同体」のアドバイザーを招いての公開授業（4月、6月、11月）
- ② 香川県教育委員会、香川県教育センターの指導者を招いての公開授業（10月、2月）
- ③ 要請による学校訪問（9月）
- ④ 中学校英語指導力・英語力向上研修講座による研究発表（11月）
- ⑤ 「香川の教育づくり発表会」（12月）
- ⑥ 香中研坂出・綾歌支部教科研究会（6月：音楽、10月：社会、家庭）
- ⑦ 香中研坂出・綾歌支部教科外研究会（6月：メディア、11月：生徒指導）